

日本腹部救急医学会 平成 21 年度定例第一回評議員会 議事録
平成 21 年 3 月 12 日 (木) 17:00~18:00
京王プラザホテル 第一会場「エミネンス」

1 : 理事長挨拶 (議事録署名人指名)

平田公一理事長より、挨拶がなされた。

日本腹部救急医学会 (以下、本学会) 評議員定数 347 名のうち、260 名弱の出席をいただいておりますので、評議員会 (以下、本会) を開催する。第 45 回本学会総会 亀岡信悟会長のご尽力に感謝の意が述べられた。

平田公一理事長より、議事録署名人として、宮下正夫評議員 (日本医科大学第一外科) と草地信也評議員 (東邦大学医療センター第 3 外科) が指名され、同 2 名が承諾した。

今後の本会議事進行については、第 45 回総会会長の亀岡信悟教授にお願いする。

第 45 回本学会総会 亀岡信悟会長より挨拶がなされ、第 45 回総会を開催するにあたり、本学会役員・評議員の先生方のご協力に対し、感謝の意が述べられた。

2 : 庶務報告

吉田雅博事務局幹事より報告がなされた。

平成 20 年 2 月 20 日現在の総会員数は 5,089 名。

平成 20 年 2 月 21 日以降、平成 21 年 2 月 20 日まで、新入会 248 名、退会 232 名、退会者の内訳は本人申出 221 名、逝去 11 名

平成 21 年 2 月 20 日現在 5,105 名。

(内訳: 役員・評議員 347 名、理事長 1 名、理事 13 名、監事 2 名、幹事 1 名、名誉理事長 2 名、名誉会員 42 名、特別会員 67 名、正会員 4,647 名)

物故者 (H20. 2. 21~H21. 2. 20 に届出があったもの) (50 音順)

安東 俊明 アントウ シアキ (日本医科大学第 1 外科)	07. 8. 1 逝去
石川 功 イカワ イチ (群馬中央病院外科)	08. 4. 19 逝去
石川 雅章 イカワ マサキ (札幌医科大学)	08. 1. 11 逝去
石原 康守 イハラ ヤスシ (共立湖西総合病院)	08. 5. 3 逝去
岡田 正 オカダ アキラ (大阪府立母子保健総合医療センター)	07. 8. 19 逝去
鈴木 孝雄 スズキ タカオ (行徳中央病院)	08. 10. 12 逝去
相馬 哲夫 ソウマ テツオ (東京医科大学霞ヶ浦病院外科学第四講座)	08. 5. 6 逝去
十亀 真志 ヲガメ マサシ (函館中央病院)	07. 11. 1 逝去
松澤 信五 マツザワ シンゴ (至誠堂総合病院)	07. 11. 13 逝去
山本 俊夫 ヤマト トシオ (榎本病院)	08. 3. 15 逝去
渡辺 衛 ワタベ マモル (渡辺クリニック)	08. 10. 29 逝去

本会において、黙祷が捧げられた。

3 : 各種委員会報告 (財務委員会報告)

安田秀喜担当理事より報告がなされた。

平成 20 年度の収入について (対予算比%)

平成 20 年度の会費収入は 43,545,000 円 (97. 2%)、別冊収入は 1,954,000 円 (97. 7%)、事業収入 (急性膵炎ガイドライン印税) は 928,800 円 (92. 9%)、広告収入は 1,548,960 円 (77. 4%)、受取利息は 127,141 円 (254. 3%)、

雑収入は 512,900 円 (85.5%) であり、収入合計は 48,616,801 円 (96.3%) であった。前年度繰越金が 69,921,188 円で、総収入合計は 118,537,989 円であった。

支出について

ガイドライン委員会費予算 1,200,000 円に対し支出されなかったが、同委員会が今年 3 月から開始されたため、来年度に支出される予定である。各種委員会費予算 600,000 円に対し、39,925 円のみ支出であったが、各委員の協力により各委員会が開催されたため、支出として計上されなかった。大規模多施設臨床研究費予算 1,000,000 円に対し支出されなかったが、委員会が今年初めから開催されたため、来年度の支出される予定である。支出合計予算 50,400,000 円に対し、決算額合計は 44,086,861 円 (対予算比 87.5%) で、4,529,940 円の黒字であった。次年度繰越金は、74,451,128 円となった。

貸借対照表と財産目録について

資産の部で編集委員会費がりそな銀行の 2 つの普通口座に預金されている。2,438,477 円は編集・別冊収入が入ってくる口座にある金額である。2,460,498 円は編集委員会活動為の口座であるが、同委員会活動費を遅れて引出すため、この金額が 2008 年末時点に残っている。未収入金として 3,175,314 円あるが、2008 年末時点で広告費があまり入っていなかったためこの金額になっているが、今年になって順に入金されるようになった。

上西紀夫監事より、以上の平成 20 年度本会会計について問題がないことを確認したと述べられた。

本会において、平成 20 年収支決算が承認された。

安田秀喜担当理事より、平成 21 年度予算案が示された。

馬目公認会計士より「大会に含まれる総会が学会の主要行事である以上、その収入と支出は総額で記載されるべきである」との指摘をいただいているため、平成 21 年度予算より、第 45 回総会の収支を組み込んだ。

収入の部

平成 21 年度会費収入 44,778,000 円 (評議員 80% 支払い見込み、正会員 97% 支払い見込み)、別冊収入 2,000,000 円、事業収入 1,000,000 円 (肺炎ガイドライン印税)、広告収入 1,700,000 円、受取利息収入 50,000 円、第 45 回学術集会参加費 14,200,000 円、第 45 回学術集会協賛金 28,800,000 円、雑収入 500,000 円とし、収入合計は 93,028,000 円、前年度繰越金 74,451,128 円として全体の合計収入を 167,479,128 円と見込んでいる。

支出の部

第 45 回学術集會会場費 16,000,000 円、第 45 回学術集會運営費 15,000,000 円、第 45 回学術集會事務局費 12,000,000 円、第 45 回学術集會補助金 5,000,000 円を支出として計上した。ガイドライン委員会費が 2,400,000 円とあるが、今年から消化管穿孔に関する新しいガイドラインを作成する予定であるため計上した。急性肺炎診療ガイドライン英文化委員会費 2,000,000 円とあるが、急性肺炎診療ガイドラインを英文化するための活動費として計上した。ネットワーク委員会より依頼のあった「会員パスワード郵送費」として、613,000 円を計上した。平成 21 年度の支出合計は 97,293,000 円となり、次年度への繰越金は 70,186,128 円となった。

本会において、平成 21 年収支予算が承認された。

4 : 各種委員会報告 (在り方委員会報告)

跡見 裕担当理事より、報告がなされた。

在り方委員会では、教育セミナー構築、学術委員会の設立と総会とのプログラム調整、会員数を増やすための方策について議論をした。

本学会の特色をどうやってアピールするかを学術委員会で検討してもらい、学術委員会と各総会会長と一緒にプログラムを組み立てていくことにより、外科以外の領域の先生方およびコメディカルを増やすことが可能と考えている。

5： 各種委員会報告（評議員選考委員会報告）

崎尾秀彰担当理事より、報告がなされた。

本年度本学会新評議員の申請者は22名であったが、そのうち1名の先生が、卒後10年を満たしていなかったため、下記21名の先生を本学会新評議員として認定した。

1 青笹 季文	社会保険大宮総合病院 消化器外科
2 赤津 知孝	荻窪病院 外科 医長
3 阿古 英次	財団法人 住友病院 外科 副医長
4 飯塚 亮二	京都第二赤十字病院 消化器外科・救急 救急部部长
5 浮山 越史	杏林大学医学部 小児外科 准教授
6 浦上 淳	川崎医科大学 消化器外科 講師
7 大垣 雅晴	京都第二赤十字病院 消化器外科 医員
8 小川 真平	東京女子医科大学 第二外科 准講師
9 河野 寛	山梨大学医学部 第一外科 助教
10 小杉 千弘	帝京大学ちば総合医療センター 外科
11 椎野 豊	医療法人 武蔵野総合病院 消化器外科 外科部長
12 篠藤 浩一	横浜労災病院 外科 副部長
13 下沖 収	岩手県立久慈病院 消化器外科・腹部救急・一般外科 外科医長
14 下地 克正	沖縄メディカル病院 外科 外科医長
15 杉山 保幸	帝京大学医学部附属溝口病院 外科 教授
16 須野瀬 豊	群馬大学 臓器病態外科 助教
17 谷合 信彦	日本医科大学 外科 准教授
18 辻本 広紀	防衛医科大学校 外科 助教
19 野口 剛	大分大学医学部附属病院 消化器外科 准教授
20 松尾 勝一	福岡大学病院 消化器外科 助教
21 横江 正道	名古屋第二赤十字病院 総合内科 副部長

本会において、上記21名が本年度本学会新評議員として承認された。

崎尾秀彰担当理事より、評議員新規申請時の業績基準を下記のように修正することを提案する、と述べられた。

4) 評議員新規申請時の業績基準

主要論文について

申請前5年間に腹部救急に関する論文（原著、症例報告は問わない）が筆頭著者、共著者を問わず1編以上あること。

主要学会発表について

申請前5年間に日本腹部救急医学会総会で最低1回は筆頭者として発表しているか、あるいは司会、座長、コメンテーターをつとめていること。

崎尾秀彰担当理事より、評議員更新の条件を下記のように修正することを提案する、と述べられた。

(6) 評議員の任期更新を希望するものは、所定の書類を評議員選考委員会に提出しなければならない。また、次項の1)、または2)を満たしていなければいけない。

1) 更新期限前の4年間に筆頭著者、共著者を問わず腹部救急に関する論文が最低1編はあること。

2)更新期限前の4年間に筆頭演者、共同演者を問わず日本腹部救急医学会で最低1回は発表しているか、または司会、座長、コメンテーターをつとめていること。

本会において、評議員申請時と更新時の条件を、崎尾秀彰担当理事の提案どおりに修正することが承認された。

6： 各種委員会報告（規約委員会報告）

安藤久實担当理事より、報告が述べられた。

本学会会員の種類の問題について、研修医、コメディカルが参加しやすい規約を再検討した。

本学会会員の種類に、準会員と一般会員を追加することを提案する。

準会員は初期研修医と医学研究者（基礎の医師）、一般会員は看護師や検査技師を指す。

会則

第4条

本会の会員は、正会員、名誉会員、特別会員、賛助会員、準会員および一般会員とする。

第9条

準会員は、初期研修医および理事会の推薦を得た医学研究者とする。

第10条

一般会員は、医師以外の医療従事者とする。

前回の本学会理事会において、準会員や一般会員になるために、理事会の承認まで得る必要はないのでは？との指摘があったので、入会を希望するものは、所定の申込書を事務局に提出すること、に修正した。

賛助会員、準会員および一般会員は、総会において発表できる、と修正した。

準会員は初期研修が終了したら、正会員となる、と修正した。

準会員や一般会員の年会費は、参加しやすいように、正会員より安く設定したいと考える。

細則

細則3. 賛助会員、準会員および一般会員に関する細則

(1)本会に入会を希望するものは、所定の申込書を事務局に提出する。

(2)賛助会員、準会員および一般会員は、本会の主催する学術集会を傍聴、ならびに学術集会に研究の成果を発表することができる。

(3)初期研修が終了した準会員は、正会員となる。

(4)賛助会員の会費は、年間100,000円とする。

(5)準会員の会費は、年間(X),000円とする。

(6)一般会員の会費は、年間(X),000円とする。

本会において、本学会に準会員と一般会員を追加することが承認され、会則第4条、9条、10条、および細則3の修正が承認された。

安藤久實担当理事より、本学会が法人化するにあたり、定款作成を急いでいるので、次回の評議員会で完成版を提案する予定である、と述べられた。

7： 各種委員会報告（編集委員会報告）

熊井浩一郎担当理事より、報告がなされた。

報告事項

論文投稿状況について

2008年：原著17 症例報告79 合計96 査読終了74 不採用9 採用率87.8%

(2007年：原著9 症例報告67 合計76 不採用10 採用率86.8%)

原著論文確保のため、第 44 回総会の座長に原著となり得る演題を推薦していただき発表者に投稿を勧めた結果、2007 年度と比べると原著投稿数が増加（9→17 編）した。第 45 回総会についても同様に座長推薦をお願いする。

投稿から採用までの期間は、平均約 4 ヶ月（2～6 ヶ月）、採用から掲載までの期間は平均約 3 ヶ月（2～4 ヶ月）である。

2008 年度学会賞および奨励賞について

編集委員会、選考委員会の審議を経て、以下のごとく決定した。第 45 回日本腹部救急医学会会期中の評議員会にて表彰式を行う。

学会賞受賞者

日本腹部救急医学会雑誌 Vol. 28 No. 6 掲載

原 著「消化管に対する N-butyl-2-cyanoacrylate を用いた経カテーテル的動脈塞栓術の濃度別安全性の組織学的検証」

聖マリアンナ医科大学放射線医学教室 小川普久

奨励賞受賞者

日本腹部救急医学会雑誌 Vol. 28 No. 6 掲載

症例報告「極めてまれな腎盂腎杯引き抜き腎損傷の 1 例」

大分中村病院外科 藍澤哲也

オンラインジャーナルならびにオンライン投稿・査読について

2008 年 4 月 1 日 28 巻 1 号がオンラインジャーナルとして公開され、28 巻 3 号（5 月 1 日公開）、28 巻 4 号（7 月 1 日公開）、28 巻 5 号（9 月 2 日公開）、28 巻 6 号（11 月 5 日公開）、28 巻 7 号（1 月 6 日公開）、29 巻 1 号（3 月 3 日公開）と順次公開になった。また 2007 年発行分の 27 巻 1 号～7 号（2 号の抄録号を除く）についても 8 月 29 日に公開になった（アクセス状況は別紙）。

オンライン投稿・査読は、J-stage のシステムを用いて行うことの理事会承認を踏まえ、

2010 年 1 月実施に向けて、J-stage の複数のワークフローのパターンから本学会に適したものを選択し実施する準備作業を開始した。

なお、オンラインジャーナル化に伴う雑誌（印刷物）の必要性に関する会員へのアンケート調査は、当初予定を延期し 2010 年を目途に実施することとなった。

審議事項

査読委員の選任について

原則として、従前どおり編集委員が査読を行うこととするが、専門領域・査読頻度を踏まえ、評議員に査読を依頼することがある。

8： 各種委員会報告（倫理問題検討委員会報告）

幕内博康担当理事より、報告がなされた。

腹部救急医療で倫理問題において、救急医療の現場は益々困難な状況になっている。救急医の減少と共に、医学生からの聞き取り調査で希望者が減少していることが判明している。本学会において、どのくらいの医師が ER に入っているのか、救急担当医が存在するのかなど、全国調査する予定である。全国調査に関しては、本学会理事会で承認を得ている。

受診者数の増加傾向、特に昼間医療機関を受診せず、夜間 ER を受診する軽症例の増加が問題となっている。一次・二次・三次救急の住み分けが行われていたはずだが、実際はできていない。“こげ付き患者”として、退所不能の患者も増加している。救急医の待遇改善が必要である。専門医制度をどうしていくかを考えなければならない。特に、基盤学会の専門医は、本当に専門医でよいか、についても考えなければならない。

「腹部救急医療の問題点を考える」を特別企画にして、各会長の先生に設置をお願いしたい。

腹部救急における利益相反の件については、本学会でも新たに検討委員会を作るので、その委員会にお任せする。

厚生労働省の「診療行為に關した死亡の死因究明等のあり方に関する試案」の件について、第三次試案のブックコメント後の新しい発展はない。

本学会会員からの倫理問題提起はなかったが、博士号授与に絡む謝礼金問題が、名古屋、横浜に引き続き、今年2月にも東京の私立大学でも発生した。医道審議会判定後の問題で、本学会としてどのように規約に盛り込むかを検討する必要がある。公的研究費に関する件が川崎と横浜で出ているが、解決が難しい。

治験承諾書の保管が問題になっているので、注意を喚起し、今後問題を防ぐことが必要である。

検査等承諾書は、あらゆる病院でやりとりされているが、インフォームドコンセントではその承諾書の説明をすべてしなければならない。全部説明することは困難であるため、この件をどう解決するか検討が必要である。

内視鏡外科手術の器具を使いまわしが行われていることについて、今後問題になるのではないかと考える。この件についても検討していく必要がある。

9： 各種委員会報告（保険診療委員会報告）

山下裕一担当理事より、報告がなされた。

本年1月8日に本学会評議員にアンケート調査を行い、その結果を考慮して、本学会からは外保連に以下のように提出する予定である。

新設要望項目（8項目）

1. バルーンカテーテルによる大動脈遮断
2. 腹部外傷に対するダメージコントロール手術
3. 膵酵素阻害薬・抗菌薬膵局所持続動注法
4. 内視鏡的経鼻胆道ドレナージ（ENBD）
5. エコーガイド下膿瘍ドレナージ
6. 腹部外傷性出血に対する動脈塞栓術
7. S状結腸軸捻転の解除術
8. 全身性炎症反応症候群（SIRS）におけるIL-6血中濃度迅速測定

改正要望項目（5項目）

1. 急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術2
2. ダブルバルーン小腸内視鏡2
3. 腹腔鏡下虫垂切除術2
4. 急性膵炎のGBC点数
5. 脾部分（半）切除の点数見直し

特定保険医療材料料（3項目）

1. 胃瘻造設セット
2. 手術時使用する縫合糸
3. 胆管・膵管造影時のガイドワイヤー

10： 各種委員会報告（ガイドライン委員会報告）

真弓俊彦担当理事より、報告がなされた。

急性膵炎診療ガイドラインについては、厚労省の急性膵炎の診断基準/重症度判定基準が2008年10月に改定され、それに伴い、急性膵炎診療ガイドラインの搬送基準や治療内容に関して改定を行う必要があり、最新の知見も反映させ、ガイドライン改訂版を2009年7月に出版することとなった。本年4月以降出版に向けて改訂を重ね、6月10日の第21回日本肝胆膵外科学会学術集会で公聴会を開催しfeedbackを頂き、7月に

出版予定である。引き続き英語版を作成し出版する。

急性胆管炎、胆嚢炎の診療ガイドライン、Tokyo Guidelines の評価と改訂については、世界で初めて診断基準、重症度判定基準を定めたものである。現在、厚生労働省研究班（急性胆道炎診療ガイドラインの普及と検証に関する研究班（吉田班））を中心に、日本腹部救急医学会、日本肝胆膵外科学会、日本胆道学会、日本外科感染症学会でこれらのガイドラインの評価を行っている。

これらの学会の評議委員約 1200 名にアンケート調査を行い、ガイドラインの評価を行い、結果を平成 20 年 11 月に開催された日本外科感染症学会（札幌）で発表するとともに、平成 21 年 5 月に開催される 3rd Combined Meeting of the Surgical Infection Societies of North America and Europe でも発表予定である。また、同学会で、会場参加者に胆道炎診療の実態についてのアンケート調査を行う予定である。さらに、露口利夫先生、竜 崇正先生を中心に、多施設で急性胆管炎の prospective な症例登録研究を計画中であり、本学会会員施設からも是非ご参加頂きたい。

新規ガイドラインの必要性のアンケート調査について、本学会評議員に今後策定が必要なガイドラインについて mail で意見を求めた。22 の返答を頂き結果は下記のごとくである。ガイドライン委員会では、このアンケート結果により、「消化管穿孔に関するガイドライン」を作成することで意見がまとまった。同ガイドライン作成委員のメンバーに関しては、本学会理事や評議員から推薦いただいた方や同アンケートに協力いただいた方を集めて決定していく予定である。

アンケート結果の集計（重複あり）

消化管穿孔	15
急性虫垂炎	12
腸閉塞	11
SMA 閉塞症	4
消化管出血	3
術後合併症	1
消化管異物	1
急性腸炎	1
大腸憩室炎	1
腹部外傷	1
急性腹症	1
閉塞性腸疾患	1

11： 各種委員会報告（ネットワーク委員会報告）

橋爪 誠担当理事より、報告がなされた。

前回の評議員会において、本学会全会員の E メールアドレス登録を義務化させることが承認されたので、今後は、具体的な対策を進めていく。全会員に E メールを含めた会員登録の確認・変更を行っていただくことをお願いする手紙を郵送する。

現在、本学会会員 E メールアドレスが学会支援機構と医学図書出版社の両機関で登録・更新されているため、一旦、全会員 E メールアドレスを学会支援機構のサーバーに一括集約させることを検討している。学会支援機構のサーバーに全会員の E メールアドレスを集約させたら、その会員の E メールアドレスは、学会事務局が管理することとなり、その取扱いに際しては、学会運営のためだけに使用することとし、将来的な会員情報の一元管理に利用していく。

12： 各種委員会報告（学術委員会報告）

水沼仁孝担当理事より、報告がなされた。

平成 20 年 11 月本学会理事会において、学術集会の設立について承認された。下記の先生方に同委員会委員として推挙し、本学会理事会において承認されたので、本日昼に第 1 回学術委員会を開催した。今後の本委

員会の活動としては、本学会のテーマである若手のための本学会が提供できる教育セミナーを設置するなど、各総会とその内容の調整を取っていく予定である。

金井 尚之 (東京警察病院 救急部)
金子 直之 (防衛医科大学校病院 救急部)
田島 廣之 (日本医科大学放射線科)
菫澤 融司 (杏林大学医学部 小児外科)
井上 和明 (昭和大学医学部藤が丘病院 消化器内科)
松本 純夫 (東京医療センター 病院長)
三森 教雄 (東京慈恵会医科大学 外科)
行岡 哲男 (東京医科大学病院 救急医学)

13: 各種委員会報告(臨床データベース委員会報告)

宮川秀一担当理事より、報告がなされた。

臨床データベース構造化委員会の役割は、急性膵炎や急性胆道炎などの腹部救急関連の各種ガイドラインの発刊以降にそれらの医療がどのように変化したかの検証をデータベースで行うことを考えている。今後どのように進めるかについて、本年11月の理事会までに委員会で検討する予定。

委員会のメンバーについては、以下3名より同意をいただいている。

委員長: 関本美穂(京都大学大学院医学研究科医療経済学教室)

委員: 吉田雅博(国際医療福祉大学化研病院透析・外科教授)、堀口明彦(藤田保健衛生大学胆膵外科准教授)

14: 第45回会長報告

第45回総会会長 亀岡信悟教授より、報告がなされた。

会期 平成21年(2009年)3月12日(木)、13日(金)

会場 京王プラザホテル

メインテーマ 育成と実践～明日を担う人をつくる～

Education 教育, Experience 経験, Excelsior 飛翔

応募演題は合計で、621題集まった。

15: 第46回会長報告

第46回総会会長 塚田一博教授より、報告がなされた。

会期 平成22年(2010年)3月18日(木)、19日(金)

会場 富山国際会議場(富山市)

メインテーマ 腹部救急医療に吹く、あいの風

16: 第47回会長報告

平田公一理事長より、報告がなされた。

第47回総会会長として、福岡大学医学部消化器外科 山下裕一教授より、立候補届けがあった。

本会において、福岡大学医学部消化器外科 山下裕一教授が、第47回総会会長として承認された。

平田公一理事長より、本学会理事会において、現在、本学会では2年後までの総会会長しか決められておらず、総会の会場が決めにくいとの意見が出されたため、次回の総会会長立候補の案内では、第48回と第49回の総会会長を募集する予定である、と述べられた。

17: 退任理事と新理事の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

本評議員会終了をもって、本学会理事から崎尾秀彰理事、与芝真彰理事、熊井浩一郎理事、跡見 裕理事の4名、さらに監事から伊藤泰雄監事の1名がご退任される。新理事として提案したい先生は以下3名である。

織田成人 教授（千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学）
北川雄光 教授（慶應義塾大学医学部外科）
山本雅一 教授（東京女子医科大学消化器外科）

平田公一理事長より、伊藤泰雄監事の後任として、跡見 裕理事を新監事として提案する、と述べられた。

本会において、平田公一理事長より提案された新理事3名と新監事1名が承認された。

18： 利益相反検討委員会立上げの件

平田公一理事長より、本学会理事会において、利益相反に関する検討委員会立上げることについて承認された、と報告がなされた。

同委員会担当理事として前谷 容理事が決定された。本学会事業内で一定の人に対する利益（研究費、講演料など）の偏りがないように、情報管理をしながら、利益の偏りを判定していく委員会が「利益相反検討委員会」である。

19： 学術集会と評議員会の日程の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

評議員会を毎年1日目の夜に開催しているが、少しでも1日目の学術集会の時間帯を少しでも多く取れるように、再来年（2011年）春の理事会から2日目のランチョンセミナーの後に開催することを提案したい。

20： 名誉会員／特別会員推戴の件

平田公一理事長より、報告がなされた。

名誉会員推戴者
跡見 裕
伊藤 泰雄

特別会員推戴者
幕内 博康

本会において、上記の先生が名誉会員推戴者・特別会員推戴者として承認された。

21： 会長賞授与式

第45回総会亀岡信悟会長より、以下4名の先生へ会長賞が授与された。

会長賞受賞者： 伊藤 元博 先生（揖斐厚生病院外科）

会長賞受賞演題： 一般示説 イレウス・ヘルニア・虫垂炎①

「開腹歴のない索状物による絞扼性イレウスの2例」

会長賞受賞者： 喜多村 美幸 先生（聖マリア病院小児外科）

会長賞受賞演題： 一般口演 小児②

「小児外傷性消化管損傷の臨床的検討-特に小腸穿孔（破裂）の臨床的特殊性についての考察-」

会長賞受賞者： 河野 寛 先生（山梨大学第一外科）

会長賞受賞演題： 診療と研究のトピックス 1
「細菌性腹膜炎における、肝と脾臓の自然免疫を介した臓器相関」

会長賞受賞者： 小松 智英 先生（日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野）
会長賞受賞演題： 要望演題 04 消化管出血の開腹手術の目安
「IVR を主体とした、出血性ショックを伴う下部消化管出血の初期治療」

22： 理事長賞授与式

平田公一理事長より、以下1名の先生へ理事長賞が授与された。

理事長賞受賞者： 木下 学 先生（防衛医科大学校免疫外科）

理事長賞受賞演題： 診療と研究のトピックス 1
「ナノテクノロジーにより作成した超極薄膜ナノシートを用いた穿孔性腹膜炎時の穿孔部閉鎖治療」

23： 学会賞・奨励賞授与式

平田公一理事長より、以下1名の先生へ学会賞が授与された。

学会賞受賞者： 聖マリアンナ医科大学放射線医学教室 小川普久 先生

「消化管に対する N-butyl-2-cyanoacrylate を用いた経カテーテル的動脈塞栓術の濃度別安全性の組織学的検証」

平田公一理事長より、以下1名の先生へ奨励賞が授与された。

奨励賞受賞者： 大分中村病院外科 藍澤哲也 先生

奨励賞受賞論文：「極めてまれな腎盂腎杯引き抜き腎損傷の1例」

24： 名誉会員・特別会員授与式

平田公一理事長より、以下5名の先生に名誉会員推戴状が授与された。

佐々木睦男 先生

高島茂樹 先生

田尻 孝 先生

山本保博 先生

与芝真彰 先生

平田公一理事長より、以下5名の先生に特別会員推戴状が授与された。

鎌野俊紀 先生

熊井浩一郎 先生

崎尾秀彰 先生

宮田正彦 先生

茂木正寿 先生

文責： 平田公一

議事録署名欄

署名人氏名： 宮下 正夫 2009年 5月 22日

署名人氏名： 草地 信也 2009年 5月 27日
